

# JICAだより

## ジャイカ JICA独立行政法人化 ジャイカ ヒックス ジャイカ “JICA-HICS”から“JICA札幌”へ

2003年10月1日をもって、国際協力事業団は独立行政法人国際協力機構として、新しいスタートを切りました。国際協力事業団は1974年に海外技術協力事業団や海外移住事業団等と一緒に設立されて以来、29年間にわたり開発途上国への技術協力の実施機関として150カ国あまりの国々を対象に「国づくり、人づくり」の国際協力を展開してまいりました。

業務の内容としては、研修員受け入れ事業、専門家派遣事業、機材供与事業、プロジェクト方式技術協力事業、開発調査、移住事業、青年海外協力隊事業、開発投融資事業および無償資金協力関連業務などさまざまな事業、業務に取り組んできています。このセンターの業務の柱となっている研修員受け入れ事業については、JICA全体の累計でこれまでに25万人を超える研修員の受け入れを行ってきています。また専門家の派遣人数が6万5千人、協力隊員は2万4千人が派遣されています。この人数実績を取ってみるだけでも、長年の蓄積の重みを感じると同時に、大変多くの方々の協力があったはじめてJICAの事業がここまで発展してきたことを改めて思い起こす次第です。

JICAではこれまで効率的、効果的な業務の実施を図るために、さまざまな組織や業務の改善に取り組んできています。常に時代の状況や援助ニーズに応じて、JICAの組織も変化してきました。今回独立行政法人に移行するというのは、これまで以上に国民の期待に応えられるよう組織の基本的な有り様が変わるといことであり、業務の実施体制や方法が変わってくるだけでなく職員の意識に関しても変革が必要になってきます。

独立行政法人化によって何がまず変わるかというと、これまでの特殊法人の時代にあつては、国と法人の責任の所在が不明確な点がありましたが、独立行政法人制度においては国は政策の企画を、独立行政法人は実施を担当するという役割分担がはっきりし、実施の部分における国の関与を最小限にして独立行政法人の自立性を高めることがあげられます。その一方で経営責任を厳しく問われることとなり、中期目標、中期計画による業績目標について3年ごとに外部の評価委員会による評価を受け、業績が上がらない場合はその責任が問われることとなります。独立性が高まるとともに責任も重くなるということです。

独立行政法人化を迎えるにあたってJICAが取り組む改革として、4つの柱が掲げられています。

一つ目は成果重視、効率性が上げられます。予算の執行を過度に重視する傾向をやめ、成果重視およびコストの見地から事業・組織を抜本的に見直すというもので、たとえば援助ニーズに合致した機動的かつ効率的な協力実施のために、協力現場の判断をこれまで以上に重視することがあげられます。

二つ目は透明性、説明責任です。JICAの経営および事業をガラス張りにし、常に国民の声にこたえるように努めることが重要です。事業の評価結果や進捗状況、更には事業の過程で得られる情報や知見を広く発信し、透明性の確保とともに国際協力への理解促進に役立っていきます。

三つ目は国民参加の促進です。地方自治体、NGO、大



独法化関連行事の一つとして10月16日、所長表彰が行われました。詳しくは次のURLをご覧ください。  
<http://www.jica.go.jp/branch/hics/tpl/topics.html>

学等さまざまな人々と協力し、国民レベルの国際協力を推進することが上げられています。国民参加の促進は当センターにおいても重要なテーマとして取り組んでいるところで、ボランティア事業、草の根技術協力、国際協力セミナー、JICA国際協力出前講座(旧称サーモンキャンペーン)、開発教育支援などさまざまな形態で、市民の方々の国際協力への参加や理解を促進するための活動を行ってきています。今後さらにこれらの活動を積極的に展開しようと考えています。

四つ目の柱は平和構築支援です。JICAはこれまでカンボジア、東チモール、アフガニスタンなどの紛争経験国での復興支援を行って来ていますが、今後復興初期の段階から長期的視点に立った協力を実施するために、復興開発支援事業を強化して行きます。JICAの新理事長として国連高等難民弁務官を経験した緒方貞子が就任しました。平和構築支援を事業のひとつの柱として進めて行くにあたって、新理事長の識見はJICAにとって大変貴重なものと考えております。

さて、このように色々と新しい取り組みを行って行くこととなりますが、新しい組織に変わっても地域の方々との関係を大事にしながら、国際協力に取り組んで行こうという当センターの基本的な考え方に変わりはありません。むしろこれからますます地域の方々との連携に力を注ぎ、北海道の特色、この地域の特色を生かした国際協力に取り組んでいきたいと考えております。これからJICA職員一同、力を合わせて組織の改変や新たな課題に対処してまいる所存です。関係者の皆様にはこれまでのご厚誼に対して深く感謝申し上げますとともに、引き続き皆様方の温かいご支援、ご協力を独立行政法人国際協力機構北海道国際センター\*に賜りますようお願い申し上げます。

\* = 独立行政法人化に伴い、従来JICA-HICSとしていた当センターの略称は「JICA札幌」になりました。

### シンボルデザイン(ロゴマーク)



人間的やさしさ/「j」と「i」は人と人が寄り添う姿  
JICAの国際協力は「人」が主役だ。お互いの価値観、文化を尊重しながら、パートナーとして、その国の自立と発展を支えていくことを表現している。  
ダイナミックな躍動感/●は「地球=世界」  
世界を舞台に活躍するJICAの躍動感、成長を表現。共に喜ばれる国際協力に取り組む私たちの情熱と決意を込めている。  
「青い地球」をイメージ/ペーシックカラーはブルー。  
地球上のすべての人々が、世代も国籍も民族も宗派も超えて、国際社会が抱える問題を解決していくという国際協力の理念を表している。

### コーポレート・スローガン

よりよい明日を、世界の人々と。

### JICA宣言

#### 私たちの使命

私たちは、日本と開発途上国の人々をむすぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ、平和で豊かな世界の実現をめざします。

#### 私たちの誓い

情熱を持って 世界の人々がひとりでも多く幸せに暮らせるように、愛と使命感をもって仕事に取り組みます。  
誇りを持って 国際協力のプロフェッショナルとして、豊かな創造力と行動力を持ち、内外から信頼される仕事をします。  
日本人々と 国際協力をこころざす日本人々の活動を支援し、その思いを分かち合い、かたちにします。  
世界の人々と 協力が必要な人々のパートナーとして、平和の基礎を築き、社会と経済の自立・発展を支えます。  
未来のために 地球環境、貧困など、国際社会が抱える課題に取り組み、希望に満ちた明日をつくります。